

## 当たり前と思える贅沢さ

専修大学松戸中学校 2年

芳野 桜

私は今年の8月7日から8月10日まで、原爆の被災地の1つである長崎へ行ってきました。この4日間で、多くの学びを得ることができました。

特に印象に残ったのは、大きく分けて、3つです。1つ目は、平和案内人の方に被爆に関する建造物のガイドをしてもらったことです。案内してもらった下の川では、原爆当初に水を求めて川に入った人が大勢いたそうです。水を求める人々は、原爆によって体の水分を失った、やけどした体を冷やしたいなど様々な背景がありました。ですが、その人々は、生きることができませんでした。川の中には放射線を含んだ油や人の死体などがあつたからです。熱い体でなんとか生きる希望であつた川に行っても、生きれないと気付いた時の絶望を想像しただけでも心が痛みました。

2つ目は原爆資料館で展示されていた数多くの展示品です。そこでは原爆によって焼かれた衣服や米が炭になったお弁当箱、顔がケロイドになってしまった方の写真など、どれも原爆そして戦争の悲惨さを物語るようなものでした。

他にも2人の少女が火葬される絵もありました。ですが、私が注目して見たのは2人の少女が着物を着ていることです。2人の少女の親たちが、最期だから戦時中には着れない色あざやかな着物を着させておめかしを少女たちにした、という話を平和案内人の方から聞いて、戦時中の息苦しさを感しました。

3つ目は、青少年ピースフォーラムのプログラムの1つである被爆者体験講話の三瀬さんの話です。当時10歳の三瀬さんの夢は、「白いご飯をお腹いっぱい食べること」だったそうです。今を生きる私たちの夢は、長期的に考えるものだと思います。

ですが、戦争中では今日を生きることさえ、精一杯だと感じ、今の私たちはとても贅沢な日々を送れていると思えました。そして、そんな贅沢な暮らしを当たり前のように過ごせている日々がありがたいと思います。ですがこのような生活を私たちができているのに対し、世界では各地で戦争が起こっています。そして、今ではさらに数千倍もの威力を増して、原爆から核ミサイルなどと名前を変え、今日にも残り続けています。そのような物が世界中に落とされ始めたら、あっという間に数多くのものを失ってしまうことになるでしょう。果たしてそれで良いのでしょうか？得るものは悲しみのみとなります。そんなことになってしまう前に私たちにもやれることがあるはずです。それは、「『戦争をしない』という心を持ち続けること」です。このような人を増やしていけば将来的に戦争はしなくなると思います。

第一歩として、私は長崎で学んだことを持ち帰り多くの人に戦争の悲惨さを広めていき、世界中の人が夢を持ち目指せるような世界にしていきたいです。